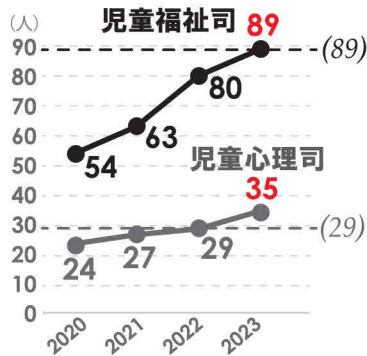


制度や予算をつけるだけでは改善しない

これまで神戸市は、なんとか虐待を減らしたいとの思いで、児童福祉司・児童心理司ともに大幅増員し、全国の政令市の中でも充足率は上位に位置するまでになっています。



※カッコ内数値は国の定める配置基準

専門職員の配置状況 【神戸市子ども家庭センター】

児童福祉司・児童心理司の配置基準充足状況 【全国政令市比較】

◎	神戸市・仙台市・千葉市・相模原市・浜松市・新潟市・京都市・岡山市・広島市・北九州市
△	さいたま市・静岡市・福岡市・堺市・熊本市
×	札幌市・横浜市・川崎市・名古屋市・大阪市

◎…どちらも充足している
△…児童福祉司のみ充足
×…どちらも充足していない

また、今回の西区の事件を受け、兵庫県では児童虐待を疑わせる相談について、全件の内容を県警が共有する方針を明らかにしました。

そして国では、令和元年に児童虐待防止法に親の子供への体罰禁止・児童相談所の体制強化を盛り込む内容に改正するなど、それぞれに体制・制度を強化していますが、それでも児童虐待は増え続けています。

調査では、児相から「**48時間ルールについては、職員をいくらでも増員できるわけでもなく全件数でルールを厳守するのは不可能に近い**」との声もありました。

そんな状況の中、虐待通告が急増する現状では**画一的に48時間ルールの厳守を求めるのは実効性のある対応とはいえなくなっている**との識者の声もあります。

では、どうすべきなのか。

こども家庭庁参与の辻由起子さん（社会福祉士・保育士）は「制度強化の取組みだけでは虐待を減らすことはできない。**虐待の根本原因にアクションをかけていないので現場は改善するどころか悪化している**」と悲痛な声をあげておられます。

「生きる(命・生・性)教育」の必要性

虐待をうけた子どもたちの多くは、その体験がトラウマとなり成長過程に様々な影響が出ることが分かっています。

また、児童虐待は、親から虐待を受けた子が成長すると今度は自らが子どもに虐待をしてしまう「虐待の世代間連鎖」も課題となっています（既往の研究では虐待が連鎖する割合は30%程度といわれています）。

こうした児童虐待の問題に真正面から取り組んでおられるお一人に、山梨県立大学の西澤哲教授（人間福祉学部）がいらっしゃいます。

教授らは、**虐待をうけた子どもの50~70%に愛着の問題が認められる**として、こどもたちへ「命・生・性」教育を実施する必要性を実践を通じて提唱されています。大阪市生野区の生野南小学校で実施されている「生きる教育」では、**子どもたちが落ち着きを取り戻し学力も向上している**ことが報告されています。

こうした事実を見ると、やはり虐待の根本原因にアクションする取組みが必要なのだと改めて感じます。

また、虐待をしてしまった親への支援も必要です。**西区の事件も親は過去に虐待を受けていた**と言われており、世代間連鎖を断ち切る支援も必要です。

私は、県議時代の2019年12月の県議会で、「生きる教育」の展開を知事・教育長に訴えましたが十分な回答は得られませんでした。

今一度、改めてこれらの問題にしっかりと取り組んでいこうと決意を新たにしています。

心の中の信号機



「生きる教育」の授業風景

ご意見、ご相談、お気軽にご連絡ください！

神戸市会議員 木戸さだかず

〒654-0142
須磨区友が丘1丁目109
電話：070(7645)4168
メール：s-kido@jcom.zaq.ne.jp

親子のための相談LINEも
あります(匿名OK!)

虐待かも... いちはやく
児童相談所
虐待対応ダイヤル **189**

子育てに悩んだら

児童相談所
相談専用ダイヤル

いちはやく おなやみを

0120-189-783